



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2006.5

No. 265

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



県内鳥見、年間オーバー100への道

先月号に普及部恒例の「埼玉県内鳥見ランキング」の結果が発表されていた。観察鳥種数と探鳥会参加回数のいずれも自己申告でその年のランキングが決まるという楽しい催しものだ。

鳥種数をみると13人の方が100以上と申告している。経験上、1人で年間100以上を記録することはちょっと努力が必要だ。しかし、よく見ると両方で上位者がダブっている。しかもこの人達は毎年の常連サンでもある。もしかしたら、まじめに探鳥会に参加すれば、いや、参加するだけで年間100種をオーバーできるのかもしれない。

そこで、両方の上位者にインタビューを試みた。質問事項は以下の7点だ。

①あなたのBWのスタイル、②鳥数や回数を意識するようになったきっかけ、③申告するようになっての変化、④観察する、或いは参加する楽しみ、⑤心がけていること、⑥お気に入りの探鳥会とそこでの楽しみ、⑦その他なんでも

どうぞ、先月号9頁「埼玉県内鳥見ランキング」表をご覧になりながらお話をお聞き下さい。

なお次号より、続けて6名の方のお話も紹介していきますのでお楽しみに！

藤澤洋子さん (志木市)

- ① 自然にふれながらの鳥見は本当に楽しい。無理はせず、マイペースで楽しんでいます。
- ② 『しらこぼと』に載っていた鳥見ランキングを見てからです。
- ③ かなり変わりました。冬鳥、春の渡り、夏鳥、秋の渡り、と毎年季節ごとに見られる鳥を意識する様になりました。
- ④ 去年はこんな鳥に逢えたのに今年はどうかな？ そんな事を思いながら鳥見を楽しんでいます。初認の鳥を楽しみにしています。
- ⑤ 冬鳥、夏鳥、春秋の渡り（特に渡りのシギチを見るのが好きです）、タカの渡りも楽しみにしています。
- ⑥ 去年は、ほとんど自分の担当場所と近くしか参加できませんでした。
- ⑦ 私の場合は、良いフィールドが近くにあるという利点が大きいです。車で10分の所に秋ヶ瀬、彩湖、大久保農耕地、30分の所

に南古谷（志木市にもいち早くシギ・チが入ってくるのですよ）があります。ランキングに参加して私自身成長させて頂いたと感謝しています。

鈴木 敬さん (小川町)

- ① 現在は見るのが中心です。
- ② まだ出会えてない鳥を求めて、自宅近辺以外の探鳥会のも徐々に参加するようになった頃、この企画が始まり、趣味の結果の一端を支部報に残せるのであればと思い、申告したのがきっかけです。
- ③ 探鳥記録をより詳しくつけるようになりました。
- ④ 鳥を通じて季節を感じたり、探鳥会で顔なじみになった方々と会ったりすることも楽しみなってなりました。
- ⑤ 探鳥会に参加する日は、その近辺、或いは帰路での探鳥もあわせて予定を立てるようにしています。
- ⑥ 3月「松伏町・松伏記念公園」 自宅からは県内で最も遠い探鳥会ですが、ホオアカ、シラコバトを期待。
5月「蓮田市・黒浜沼」 ムナグロはもちろん、他のシギ・チ類の出会い。
7月「狭山市・入間川」 暑い時期ですが、ササゴイさらにアフターも楽しみ。
11月「本庄市・坂東大橋」 猛禽類やカモ類など期待感でいっぱい。



2月「東松山市・物見山」 ウソ、ミヤマホオジロ、トラツグミなど当たればラッキー。

⑦ マイフィールドでも楽しんでいます。

青木正俊・真弓・里美(12歳)・夏美(9歳)さん(さいたま市)

① 私…見るのが楽しい。見た鳥を図鑑等で調べるのが楽しい。

妻…自然との触れ合いが楽しい。鳥を見るのは自然との触れ合いの一部かしら。

娘達…見た鳥の絵を描くのが面白い。探鳥会で他の人と遊んでもらえるのが嬉しい(お父さんばかり泊まりの探鳥会に行くのはずい)。

② 『しらこぼと』を読んでいて、自分達の参加回数と比べ、もしかすると掲載させてもらえるかもしれないと思って。

③ 特に変わりません。娘達はライバル意識を持ち、11月ぐらいになるとお互いに何回探鳥会に参加したかを確認しあっています。

④ 私…新しく見る鳥が増えるのは楽しい(目標は300種!今は202種)。探鳥会でいろいろな人と話しが出来るのが楽しい。

妻…多くの鳥を観察することより、自然の中を歩くのが好き。将来は身近に鳥がいっぱいいる場所に住みたい。

娘達…めずらしい鳥を見るのが好き。遊んでもらえるのが嬉しい。アカハラオジサン、コドモオジサン、ノッポサンが好き。←我が家ですべての探鳥会です。

⑤ 我が家の場合、鳥を見つけるのはうまくないので探鳥会に参加することによって多くの鳥を見つけています。今年の1/1~3/26までで私の場合、見た鳥は116種、その内探鳥会で見た鳥は106種です。埼玉で見た鳥は79種です。

山の神様に貢物を忘れないこと。特に私一人で遠くの探鳥会に出席した場合、天罰が下らぬようお土産は絶対必須!

⑥ 3月「日光東照宮裏山」 埼玉ではなかなかお目にかかれない鳥達

5月「蓮田市・黒浜沼」 ムナグロ等の



娘との泊まりの探鳥会です

シギ・チ類。数年前にオオタカがムナグロを襲うシーンを見て以来、娘は鳥を見るのが好きになったようです。

7月「渡良瀬遊水地」 ヨシゴイ、コシキリ

8月「船橋海浜公園」「谷津干潟」

私…シギ類、娘達…カニ遊び・貝殻拾い、妻…でも暑い。

あまり鳥がないので普段見ることの出来る鳥をじっくり見る(カルガモの♂♀の識別など)。夏は暑いし探鳥会は少ないし、子供とプールに行くことが多いです。

9月「松伏町・松伏記念公園」 シラコバト

11月「奥日光」 私…埼玉ではなかなかお目にかかれない鳥達。妻、娘達…「帰りの温泉よ!」

12月「北川辺町・渡良瀬遊水地」 猛禽類、ベニマシコ。探鳥会が終わった後は夕方まで子供と遊び、チュウヒが帰って来るのを待っています。妻「でも寒い」。

1月「さいたま市・さぎ山記念公園」 シロガシラアカショウビンのさえずりと踊り。娘達は家に帰ると母親に懇切丁寧に「シロガシラアカショウビン」の説明をしています。

2月「さいたま市・大宮市民の森」 私たちが初めて参加させていただいた探鳥会です。ここが無かったら探鳥会に参加することは無かったと思います。皆さんに親切(特に子供達)にして頂きました。

(以下、次号に続きます)

第2次県内野鳥分布調査 2005/2006年冬 報告 埼玉県内におけるミヤマガラスの今

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

本調査は(表1)により実施された。本稿では、今回の注目種ミヤマガラスを報告する。

ミヤマガラス

ハシボンガラスよりひと回り小さく、基部が白く他は黒い嘴が特色。日本には10月から3月頃に冬鳥として渡来する(高木 2004)。

今回の調査結果(表2)を1:25,000地形図を4分割したメッシュで示す(図1)。

おわりに

田が残されている県東部の5ヶ所と、大宮氷川神社のカラス冬埒の計6ヶ所で確認された。県東部の農耕地を餌場として、200羽から300羽の群れで越冬していることがわかった。

文献

高木憲太郎 2004 ミヤマガラスの分布調査 バードリサーチニュース Vol.1 No.3

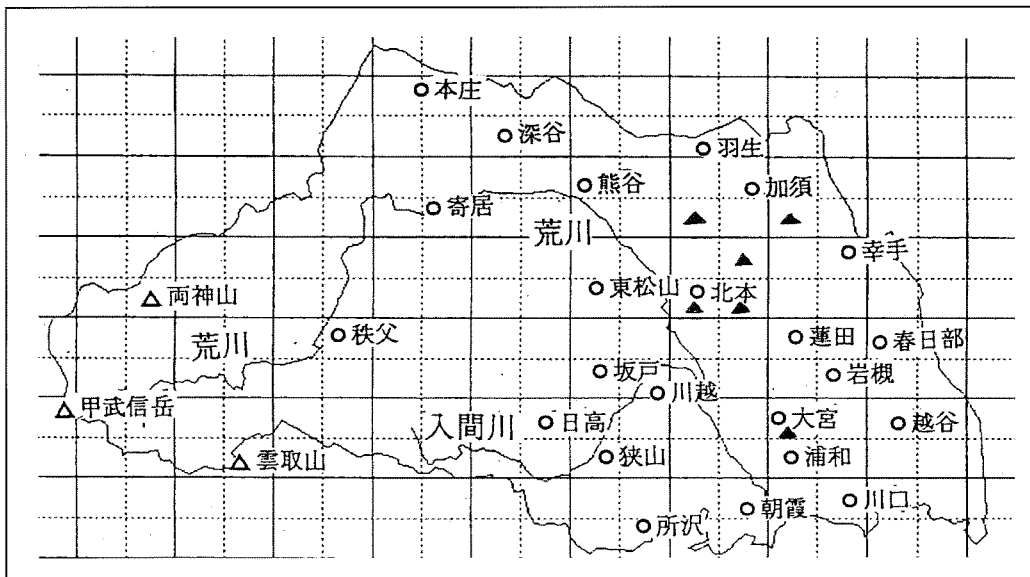
表1 調査概要

調査期間	2005/12/1~2006/1/31
調査方法	調査はがきによるアンケート他
調査はがき	20通
支部定例調査	24ヶ所
調査メッシュ数	128メッシュ

表2 注目種ミヤマガラスの調査

調査はがき数	6通
ミヤマガラス存在メッシュ	6メッシュ

図1 ミヤマガラスの分布(▲)



第2次野鳥分布調査(夏鳥)にご協力ください

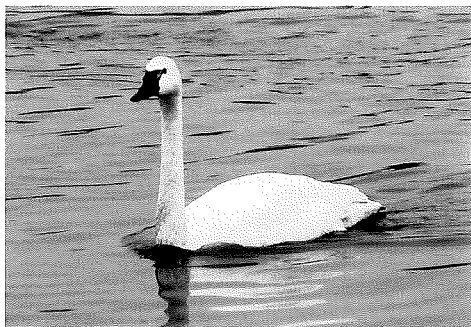
2006年5月10日から7月10日まで、県内全域を対象に夏鳥調査を実施します。この期間内に県内で観察した鳥種名、観察地を、6月号に同封する調査はがきに記入して、郵送をお願いします。

夏の注目種はサシバ。県内で繁殖期にサシバはどのくらい見られるでしょうか。第1次調査(1985年~1990年)では1:25,000地形図4分割メッシュで19メッシュ確認されました。今回は増えているといいのですが。

(研究部)

野鳥記録委員会の最新情報

●亜種アメリカコハクチョウ



英名 Whistling Swan

学名 *Cygnus columbianus columbianus*

分類 カモ目カモ科コクガン属

2006年3月16日、深谷市本田(旧川本町本田)荒川のハクチョウ渡来地で、鵜飼喜雄(深谷市)が撮影しました。

コハクチョウの亜種は、日本では、亜種コハクチョウ(*C. c. bewickii*)と、亜種アメリカ

コハクチョウの2亜種が記録されています。

亜種アメリカコハクチョウは、亜種コハクチョウよりやや大きく、嘴がほとんど黒色で、眼の前に小さな黄色斑があることが特徴です。黄色斑がまったくない個体もいます。

亜種コハクチョウがユーラシア極北部で繁殖し、日本・朝鮮半島・中国南東部やヨーロッパ北西部で越冬するのに対し、亜種アメリカコハクチョウは、北アメリカ極北部で繁殖し、アラスカ南部からカリフォルニアまでの太平洋岸で越冬します。日本には稀な冬鳥として飛来します。

県内では、所沢市狭山湖にかつて飛来したことが知られていますが、亜種ですから、種レベルのように記録が残されていません。いずれにしても、県内への飛来例は少ないと言えます。

今年の蓼科

小林昌夫(三郷市)

2月7日～8日まで蓼科へ探鳥に行ってきました。今冬は蓼科も鳥影が少なく、事前にペンションの主人から「昨年は佃煮が出来るくらい餌台に群がっていたハギマシコは1羽も姿を見せず、オオマシコ、ベニマシコは勿論、イカルも顔を見せないからその心算で」と電話があるくらいでした。同行の皆さんにもその旨お話しして覚悟して出かけました。

大寒波襲来の予報で、あるだけの防寒具を持って行きましたが、茅野駅に降りた途端「暖かいな」という感じ、途中の道路も積雪は少なく、昨年は凍結していたのに、コンクリート肌がそのまま出てきました。

弁当をペンション内で食べ、早速室内から観察し始めましたが、目の前が餌場なのでスコープは必要なく、誰も持参しません。アトリ、コガラ、ヒガラ、ウソ、アカゲラ、ヤマガラ、ゴジュウカラはひっきりなしに飛んでくるので、初めて来られた方は感動の連続でした。室内からコーヒーを飲みながらの探鳥

は、贅沢の極みです。

オオマシコは1/15 東京支部の探鳥会の折、1羽♂が目の前に出てきて大騒ぎになったそうですが、それ以来現れないようで、東京の方は運が良かったですね。全然居ない訳ではなく、2キロくらい離れたペンションには2番いが居るらしく、カメラマンが居座っているようです。

その代わり8日は我々も予期しなかったヤマドリが前面の山肌を歩いているのを見つけ、大騒ぎになりました。僅か10秒足らずの出来事でしたが、この感動は忘れないでしょう。

〔観察鳥種〕キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アトリ、カワラヒワ、カケス、ウソ、シメ、ヤマドリ、ハシブトガラス、以上22種。

ご主人の「今年は山に餌が豊富なのか、飛んではいるのですが里には下りて来ません。来年はきっと赤い鳥も来てくれるでしょう」との希望的観測を信じて帰宅しました。



野鳥情報

春日部市内牧 ◇1月26日、久し振りに宮代側の林に行ってみたが鳥影薄い。ようやくオオタカ成鳥1羽が樹上で周辺を見渡しているのを見つける。背の褐色味が強いので♀と思われる。その他ジョウビタキ♀、アオジ、ツグミ、シジュウカラ、コゲラ、メジロなど。隣接していた林やブッシュは更地になり、宅地になり始めている。この林ももうダメのようだ(鈴木紀雄)。

蓮田市川島元荒川 ◇1月30日、タシギ1羽、川の縁で羽繕いをしながら水浴びをしていた。そばにコチドリ、コサギ、セグロセキレイ。川の中にコガモ、ヒドリガモ、カルガモ、カワウ(本多己秀)。

蓮田市馬込綾瀬川 ◇1月31日、イソシギ、ハクセキレイ、コガモ、カルガモ、コチドリ。悪臭の川にもこんなに鳥がいた。そばのアシ原にカシラダカの大群(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇2月3日、上沼でカワセミ、コガモ、オナガガモ♂1羽、マガモ♂1羽。2月8日、アシ原でオオジュリン。療養所内でエナガ(鈴木紀雄)。◇2月18日、療養所内でカケス2羽、ブルーの羽が美しい。ツグミ4羽、2月に入ってやっと数が増えてきた。カシラダカ20羽、例年より少ない。アオジ4羽、やっと目につくようになった。例年より少ない。ウグイス3羽、その内の2羽が今年初めてのさえずり、まだ下手だ。アカハラ3羽、シロハラ、シメ、メジロ約20羽、シジュウカラ。2月21日、療養所内の林でシメ、シロハラ2羽、アカハラ2羽(その内1羽は頭部が黒いのでオオアカハラ♂ではないかと思う)。エナガ2羽とシジュウカラの混群。ハイタカ1羽、雑木林の中をすり抜けた。アオジ、ツグミが今になってやっと増えてきた。カシラダカ約80羽、ウグイス、コゲラ、カケス。2月23日、療養所内でウグイス、地鳴きとさえずり、「ホーホケキョ」がうまくなってきた。シメ、メジロ、アカハラ1羽、シロハラ1羽、

カシラダカ約60羽、ツグミ、コジュケイ、コゲラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、モズ、カワラヒワ、カケス。上空でオオタカ成鳥1羽、カラスにモビングされながら旋回していた。羽がかなり白い。2月24日、療養所内でウグイス、上手にさえずっているのが増えたが、地鳴きだけのものもいる。シロハラ2羽、アカハラ3羽、カシラダカ100羽十、コジュケイ4羽十、キジ♂1羽♀1羽、エナガ2羽、ジョウビタキ3羽、シメ2羽、ツグミ、アオジ、モズ、カケス(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇2月21日、タヒバリ8羽、ツグミ10羽、ムクドリ30羽、ハクセキレイ1羽、ホオジロ1羽。火入れ後の黒く焼けた1枚の田で餌を探していた(本多己秀)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月31日、チョウゲンボウ1羽。2月3日、ベニマシコ♂若鳥1羽、♀1羽。ジョウビタキ、ホオジロなど。暖かく春めいてホオジロはぐぜっていた。2月7日、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ゴイサギ若鳥、イカルチドリ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、コゲラ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ホオジロ、シメ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ♀2羽、ベニマシコ♂1羽、♂若鳥1羽、♀1羽、カケス5羽、オナガ2羽など。3月5日、上空をハヤブサ飛翔。ここで見るのは何年ぶりか。3月7日、今日はオオタカが飛んだ。セグロカモメ、オオジュリン、シロハラ、アカハラ、カイツブリ、カワウなど(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇2月13日午後3時30分頃、チョウゲンボウ1羽、ヒラヒラ飛びながらコウモリを追いかける。4～5回アタックし、つかまえて飛び去る。2月28日午後1時45分、ゴルフ練習場の鉄塔上にいるオオタカにカラス2～3羽がモビングしていた。オオタカは翼と尾羽を開いて威嚇し、カラスを追い払ってしまった(藤原真理)。

さいたま市岩槻区太田町 ◇2月22日、シメ♀1羽、やっと今季初。本当に今年は冬鳥が少ない(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区藤子 ◇1月31日、タゲリ2羽、タヒバリ、ヒバリ（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区新右工門新田 ◇2月10日、新田脇の芝川に流れ込む流入口の僅かな流れの中でタシギ、イソシギが寄り添うようにしてたずんでいた（赤堀尚義）。

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇2月23日、コチドリ2羽、タヒバリ4羽、ツグミ10羽、セグロセキレイ3羽、ハクセキレイ、カワラヒワ多数。3月13日、コチドリ6羽、イカルチドリ2羽、アカハラ1羽、ツグミ、ハクセキレイ、カワラヒワ（鈴木紀雄）。

さいたま市浦和区大原サッカーグラウンド付近 ◇2月10日、グラウンド脇の休耕田のアシ原でベニマシコの声、しばらく耳をすましていると♀1羽が飛び出し直ぐ近くに止まってくれた。近くの通路にホオジロ、アオジ、スズメが入り乱れて盛んに餌をついばんでいた（赤堀尚義）。

さいたま市浦和区南部浄化センタ付近 ◇2月28日、アシ原にオオジュリン10数羽、スズメ20~30羽と一緒に群れて大騒ぎしていた。近くのセイタカアワダチソウにベニマシコ♀、♀4~5羽が口いっぱい種を頬張っていた（赤堀尚義）。

越谷市県民健康福祉村公園 ◇2月11日午前9時、南側水路でタシギ2羽。公園内でユリカモメ5羽、セグロカモメ1羽、カイツブリ2羽、カワラヒワの群れ。2月12日午前10時、公園西側でシラコバト3羽（小菅靖）。

越谷市七左町8丁目 ◇2月21日午前7時、シラコバト1羽、電線にとまって鳴いていた。最近この周辺でシラコバトが減少している（小菅靖）。

松伏町県立緑の丘公園予定地 ◇2月11日午前11時、カワウ、コサギ1羽、ダイサギ2羽、アオサギ3羽、オオバン4羽、タシギ3羽、タヒバリ6羽、カワラヒワ、ハクセキレイなど。帰りかけたらオオタカ1羽飛びだす（小菅靖）。

本庄市利根川 ◇2月18日午後3時頃、対岸の木立に止まっていたハイイロチュウヒ♀が本流を横切り車の右脇を通過した。本流



上空約1mの低空で飛翔しアシ原に消えた（上の写真）。3月22日朝、本庄市の利根川河川敷でコチドリ2羽、鳴きながら水辺をフライトしていた（町田好一郎）。

本庄市総合公園 ◇3月25日午前10時頃、蓮池上空でツバメ1羽、華麗に舞ったり池の水を飲んだりしていた（町田好一郎）。

渡良瀬遊水地 ◇2月19日、貯水池の干上げでカモ類、カイツブリも少ない。セグロカモメ、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ベニマシコ♀、タゲリ、シメ、カシラダカ、ホオジロ、ミサゴ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ♂♀。ハイイロチュウヒ♂♀の色のコントラストは見事。トビ約30羽、トビ柱ができていた。チョウゲンボウ、コチュウゲンボウ、ノスリなど（本多己秀）。◇3月12日、チュウヒ約10羽、ノスリ約5羽、ハイイロチュウヒ♂1羽、ミサゴ3羽、チョウゲンボウ1羽。干し上がった池でタゲリ2羽、トウネン7羽（鈴木紀雄）。

表紙の写真

スズメ目カラス科カケス属ルリカケス

柳 清二（大利根町）

編集部解説 全長約38cm。カケス（全長約33cm）より少し大きい。奄美大島の亜熱帯照葉樹林にのみ生息する日本特産種。1921年に天然記念物に指定され保護されるようになったが、近年個体数が減少していると言われ、レッドデータブック、IUCN レッドリスト、絶滅危惧Ⅱ類種。種の保存法国内希少野生動物種。カケスから種分化したと考える説と、インドカケスに近い遺存固有種と考える説がある。



行事案内



アマサギ(古澤洋子)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：5月3日(水・祝)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：バス停「下大久保」から徒歩約8分。

「下大久保」へのバス：浦和駅西口から荒川総合運動公園行き 8:17 発で 8:36 着、与野駅西口から志木駅東口行き 8:20 発で 8:36 着、志木駅東口から与野駅西口行き 8:25 発で 8:41 着。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：昔、関東の沖積低地はすべて低層湿原でした。アシが生える湿原や、林床にアシが生えるハンノキ湿性林が今も残る秋ヶ瀬で、古の一面のアシ原を想います。今回のテーマは「アシを調べよう！」。

持ち物：長靴、メジャー、ルーペ、ナイフがあればお持ちください。

ご注意：探鳥会ではありません。研究部担当の自然観察会です。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(金・祝)

集合：午前9時40分、JR京葉線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和 8:35→南浦和 8:38→南船橋 9:29 着。(直通)

担当：杉本、手塚、長谷部、菱沼(一)

見どころ：春の渡りのシギやチドリが主役。

今年も潮回りが良くありませんが、どんな珍客が訪れてくれるでしょうか。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月7日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、吉安、長野、菱沼(一)、松永、榎本(建)、青木

見どころ：立夏を過ぎ、夏鳥を迎えたこの季節には、北へ向かうムナグロなどが笹山や黒浜の田んぼに立ち寄ります。今年も期待して、元荒川の川島橋から黒浜沼・環境学習館まで歩きます。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月7日(日)

集合：午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：春日部 8:21→久喜 8:34 発→花崎 8:42 着。または JR 宇都宮線大宮 8:04→久喜 8:24 着で東武伊勢崎線 8:34 発に乗り換え。花崎駅から徒歩約 10 分。

担当：長嶋、中里、宮下、四分一、栗原、植平、鬼塚

見どころ：公園側との共催となって 4 回目の探鳥会。時は初夏、新緑の公園とその周辺を散策しながら、身近にいる野鳥を観察しましょう。自然の仕組みのすばらしさを知り、貴方も今日からナチュラリスト。初めてのかた、初心者の方

かた歓迎です。

群馬県・四万温泉周辺探鳥会 (要予約)

期日：5月13日(土)～5月14日(日)

定員に達したので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、和田、森本、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田

見どころ：五月の風、若葉の風が気持ち良く渡ってきます。ツバメは軽やかに舞い、若葉の梢ではホオジロのさえずりが、アシ原ではにぎやかな恋歌が流れて行きます。5月の大麻生は最高！

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：5月14日(日)

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館(旧県立歴史資料館)駐車場。

交通：東武東上線川越8:03発、または寄居8:12発。

担当：後藤、喜多、大澤、青山、倉崎、新井(巖)、中村(豊)、林、千島

見どころ：住宅街でもツバメが忙しく飛び回り、賑やかになりました。今回は、繁殖期を迎えての子育てや幼鳥の観察をしましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月20日(土)午後3時～4時ごろ
会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤

見どころ：今年もカッコウが戻ってきます。その目には、昨年から続く芝川の工事・環境の変化はどう写っているのでしょうか。見沼を歩く人のホームページに「鳥たちもがんばっているよ」という記載がありました。青葉の見沼たんぽを歩きましょう。

栃木県・奥日光探鳥会 (要予約)

期日：5月24日(水)

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時ごろを予定。

費用：6,000円の予定(バス代、高速料、保険料など)。過不足の場合は当日精算。

定員：20名(先着順、県支部会員優先)。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入で必要です)、電話番号を明記して、榎本秀和

まで。

担当：榎本(秀)、入山、藤澤

見どころ：初夏の奥日光是久しぶり。湯滝・光徳・戦場ヶ原に、高層湿原の鳥を訪ねます。雨天決行です。

長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：5月27日(土)～5月28日(日)

詳細は4月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月28日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、または所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)、山口

見どころ：繁殖期の鳥たちを探し、そっと観察します。やってきたばかりの、ササゴイやオオヨシキリも楽しみです。



行事報告

10月10日（月、休）さいたま市 大久保農耕地

雨のため中止。

12月4日（日）北本市 石戸宿

参加：43名 天気：曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ノスリ キジバト カワセミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 高尾の池には一面の氷が張り、カモの姿はあまり見られなかった。高尾の森近くの梅林では、歩道の傍らでキジバトが営巣していた。この寒さの中での繁殖は意外で、成功を祈らずにはいられなかった。桜堤下の釣堀でカワセミが出てくれてホッとした。冬鳥の数が少ない気がする。

(岡安征也)

1月7日（土）久喜市 久喜菖蒲公園

参加：60名 天気：快晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ トモエガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ バン オオバン セグロカモメ ウミネコ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 当支部と公園との第1回共催探鳥会ということで、その共催の精神に基づき「野鳥を通して自然と親しむ」をメインテーマにした。例年にない寒さにもかかわらず60名（うち公園側の情報で6名）が参加した。沼の3分の1が凍ってしまったのが幸いしてか、ボート乗り場の棧橋でアメリカヒドリやヒドリガモが、近くの岸にはヨシガモがいて、参加者をひきつけた。続いて浮島の前で他のカモに混ざってトモエガモの雄が泳いでいるのを発見。皆一斉にスコー

プを向ける。興奮が収まったころ、浮島にオオタカカ若がいるのを少女が見つめて、またまた大騒ぎになった。また、昭和沼では初認のウミネコが観察でき、ベテランを喜ばせた。全員それぞれお目当ての鳥をゲットでき、ルンルン気分で帰途についた。

(長嶋宏之)

1月8日（日）熊谷市 大麻生

参加：29名 天気：晴

コハクチョウ カルガモ トビ オオタカ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 風もなく快晴だ。明戸堰が凍っているということで、野鳥の森へと向かう。途中冬鳥を含め、大変小鳥が少ない。モズが際立って目立つ。野鳥の森へ入って、ベニマシコが数羽、さらにミヤマホオジロが5～6羽落ち葉の中で採餌しているのを確認。最後に盛り上がりを見せた。

(後藤康夫)

1月8日（日）千葉県船橋市 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：42名 天気：晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コクガン コガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ ハヤブサ オオバン シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ シロカモメ カモメ ズグロカモメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ セッカ スズメ ムクドリ (30種) ハヤブサを嫌ってミヤコドリは疎開中！ コクガンは数人が見ただけで飛んでいってしまった。それでもハマシギが団子になって乱舞し、スズガモの固まりが見られるいつもの干潟を楽しんだ。この当たり前の光景が日本から失われてきたのだ。

(杉本秀樹)

1月9日（月、休）春日部市 内牧公園

参加：33名 天気：晴

ゴイサギ コサギ アオサギ トビ オオタカ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオアカ カワラヒワ シメ

スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 穏やかな日和となり、開始早々オオタカ成鳥が上空に。常連の鳥影は少なかったが、ゴイサギ、アオサギ、トビ、ホオアカが出現。ホオアカはこの探鳥会では初記録だった。

(石川敏男)

1月9日(月、休) 戸田市 彩湖

参加: 70名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ ヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 寒くはなく良い日和。だだ、この冬は小鳥たちが少なく気になる。池は連日氷結してカモたちも来ない。昨年見られたヒメアマツバメ、ベニマシコ等見られなかった。途中でヨシガモ♂11羽♀12羽が見られ、ダメ押しのみコアイサがつかいで見られ、終了となった。(倉林宗太郎)

1月15日(日) 長瀬市 長瀬

参加: 70名 天気: 晴

カイツブリ カワウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ イカルチドリ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 暖かい探鳥日和になる。出発して間もなく、第1ヤマセミポイント。すぐ頭上の大木にヤマセミがお出迎え。大勢のお客さんにビックリしたのか対岸へ飛んで行って遠かったものの、全員でじっくり見ることができた。上空にはトビ、ノスリも旋回。トビは食事シーンのサービスも。第2ヤマセミポイントでは、またもやヤマセミが、上空にはハイタカも見られた。最後を締めくくってくれたのは上空のオオタカ。終わってみれば皆さん満足のいく探鳥会だったのでは? (井上幹男)

1月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 63名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ バン タゲリ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 正月なので初めての参加者がちらほら。ここで鳥見をスタートする意気込みが嬉しい。ご褒美に6年ぶりにタゲリが3羽ゆっくり出現。にぎやかな探鳥会であった。(楠見邦博)

1月21日(土) 蓮田市 黒浜沼

雪のため中止。

1月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12名

浅見徹、新井浩、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、千野安以、檜山大介、檜山秀樹、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、山口芳邦

1月22日(日) 長野県 軽井沢町

参加者: 37名 天気: 晴

アオサギ トビ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ イカル シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 雪が少なく想定外。長倉神社も所々地面が見える状態。赤いヤドリギの実はたわわなのにヒレンジャクの姿はなし。DHでアオゲラがじっくり観察出来た。三井の森では凍結も殆んど無くアイゼンが生欠伸。途中カラ類が楽しめた。湯川では常駐のカワガラスを観察。下りではアカゲラ、アトリ、カシラダカに出会えた。冬季クローズ中のピッキオも我々のために休日出勤しオープン。トイレの借用が出来た。m()m 雪も鳥も少なかったが浅間山の景観を満喫し塩壺温泉のロビーでランチが取れ、軽井沢らしい探鳥会であった。何人かの方は帰路、レンジャクの群れに遭遇したそう! 長倉神社にお賽銭を上げた? (町田好一郎)



3月14日、神奈川県横浜市港北区の鶴見川で
オガワコマドリ (松村禎夫)



●今年も「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

毎年この季節は、「善意の誘拐事件」が多発します。支部事務局には、「野鳥のヒナを保護しました。どうしたら良いでしょうか」という電話がかかってきます。野鳥の会は鳥類保護連盟、野生動物救護獣医師協会と共催で、「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンを実施します。

ヒナを見つけたら、そのままそっとしておくことが最善であることを、支部会員の皆さんも、機会がありましたら、PRをお願いします。詳しくは、支部ホームページをご覧ください。

●理事・評議員・鳥獣保護員

本部役員などは2年に1度の改選の時期です。2月12日(日)に開催された理事会で橋口長和が、南関東地域支部の代表の評議員として、3月18日(土)に開催された評議員会で海老原美夫が、学識経験者枠の理事として、それぞれ再任されました。

県鳥獣保護員は毎年更新の手続きがあります。支部役員会は18年度も、福井恒人と小荷田行男の2名を継続して推薦しました。

●事務局の予定

- 5月7日(日) 編集部・普及部会議。(日にちにご注意!!)
- 5月13日(土) 研究部会議。6月号校正(午後4時から)。
- 5月20日(土) 袋づめの会 (午後3時から)。
- 5月21日(日) 役員会 (午後4時から)。

●会員数は

4月1日現在 2,310 人です。

活動報告

- 3月11日(土) 4月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司・山田義郎)。
- 3月18日(土) 日野市WINGで開催された本部の評議員会に出席。



左から山部直喜・柳生博会長・藤掛保司・菱沼一充・橋口長和・海老原美夫

- 3月19日(日) 役員会(司会:大澤祐、各部の報告・次期役員候補・その他)。
- 3月22日(水) 4月号を発送 (倉林宗太郎)。

編集後記

4月号に「カメラの落下事故にご用心」なんて書いたら、なんとその翌日、畦道に立てていた自転車が倒れ、ザックがごろごろちゃぷんと水の中。カメラも濡れて大損害。5月!! 自転車の転倒事故にもご用心!! (海)

しらこぼと 2006年5月号(第265号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazukuh@hotmai.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社